

## 2023年度 広安愛児園事業報告書

### 1 基本理念

「神の家族」というキリスト教精神に基づくホーム(小舎)制による異年齢・男女一緒の家庭的養護をとおして、「共に生きる」「役に立つ心豊かな人」を目指した自立支援を行う。

### 2 基本方針

#### (1) 施設運営

ホーム複数担当制による、きめ細やかな関わりを継続し、様々な人間関係の中での家庭的養護(小規模グループケア、地位小規模児童養護施設)を実施することにより、子どもたちの福祉増進や自立支援強化に努めた。本年度も地域の有識者に苦情処理解決第三者委員を委嘱したほか、一時保護委託事業や、可能な限り契約地域からのショートステイ、トワイライトステイ委託事業に応じた。また、体育館やグラウンド、畑等の施設設備開放、地区子ども会や夏祭りへの参加など、地域やNPO法人との連携、協力を大切にし、地域に開かれた貢献ができる施設運営に心がけた。

#### (2) 児童支援

児童一人ひとりを承認し、褒めて自信を持たせることを重視し、そのことにより自己肯定感や自己有能感を少しでももつことができるよう継続的な働きかけを行った。また、本人の希望により、部活動や園外での習い事(ピアノ、卓球、バドミントン等)を推奨することで、社会性や協調性、忍耐力、正しい自己表現力などの向上にも努めた。

一方、要望・意見箱の設置や毎月の聞き取り調査により性的事案や虐待等の防止を図るとともに、苦情処理第三者委員会において、子どもや保護者から出された要望・意見を報告し、助言、意見をいただくことにより児童の基本的な人権の尊重や児童のより良い支援に努めた。

また、令和4年熊本県のモデル事業として、NPO法人「トナリビト」によるアドボカシー(アドボケイト)が開始された。当園は、モデル施設として原則月に1回受け入れ、児童の思いや考えを職員以外の大人に遠慮なく伝えることで、精神的な安定と自分自身の成長の再確認を行っている。児童の希望によっては、個人的な日時や場所の設定もトナリビトと相談して行っている。

#### (3) 職員育成

外部研修は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となり、年間研修計画に基づき可能な限り実施した。日本キリスト教連盟研修、九州ブロック研修や西日本ブロック研修及び、熊本県単位の研修等、多数の対面研修への参加が実施できた。

さらに、今年から法人内職員研修が若手と新任、一般の3回に分けてリモートで行われた。これによって、所属する施設について再度の気づきや、同法人である他施設についても、新たな発見となる研修であったと思う。

また、園内研修については、年間計画によって、外部講師講話や各種委員会からの発表により、全職員の共通理解や情報共有する時間とすることができた。しかし、残念ながら5月、6月と新任CW2名より心身不良に伴う休職、退職の申し出があった。

別々の地域小規模児童養護施設で勤務していた二人は、新任と3年目のCWであ

り、優秀な人材で安心していましたが、本園から離れている地域小規模での孤立感や、児童や職員関係による悩み等からの退職となり、若手職員の人事配置と育成方法に課題が残った。

そこで、令和6年度は、「広安愛児園の活性化」「職員力のレベルアップ」を目標に、中堅 CW が地域小規模児童養護施設担当職員となる異動や、本園内でも担当ホーム職員が変わる、人事異動9名を行うことにした。また、新卒新任職員2名は、各ホームをフリー CW として巡回することで、多くの経験を積むような、シフトにした。

### 3 重点目標

#### (1) 児童の生命・安全を守る

令和5年5月8日より新型コロナウイルスが2類から5類に引き下げられ、インフルエンザなどと同類となった。これによって、社会の動きや学校の行事等も、徐々にコロナ前の状態に戻ったことに伴い、園でのコロナ感染対策も見直し、隔離ホーム利用から所属ホーム内での隔離とした。但し、感染児童やホームの状況に応じて臨機応変に対応することにした。結果、数名のコロナ感染やインフルエンザ感染者が出たが、園内での感染増加にはならず、単発的な発生であった。

児童の発熱症状やアレルギー反応等訴えがあった場合は、ホーム担当者から看護師に報告を行い、助言対応を検討した。通院が必要な場合には、予約を取り速やかに通院を行った。また、解熱後症状が治まっても、様子を見て登園や登校を控える様に当園、登校の基準の見直を行った。

#### (2) 児童の権利擁護と施設内虐待の根絶

令和5年度は、熊本県子ども家庭福祉課より被措置児童虐待疑い通告が6件あげられた。熊本県中央児童相談所4件（心理的虐待4、ネグレクト1、身体的虐待2）、熊本市児童相談所3件（心理的虐待2、身体的虐待2）であった（1件は重複事案）。所属ホーム児童へは、各児童相談所からの聴き取り、関係職員へは子ども家庭福祉課からの聴き取りが行われた。5件中2件は、「被措置児童等虐待に該当しないと判断するが、不適切な対応は確認された。」と熊本県子ども家庭福祉課より回答指導があった。他3件は、該当しない。通告内容や『告発者は、守られる。』が原則であり、関係職員には詳細な説明が無い状態のまま、プロセスよりも結果での判断である為、関係職員側のモヤモヤが、対児童や職員への不信感として残る後味の悪いものであった。なお、6件目は継続中の事案である。

通告数が問題ではなく、施設内での被措置児童等虐待、不適切な言動は許されない厳しい目がある。その為には、全職員の児童権利擁護に関する意識の向上や意識の改革が急務であり、職員の年齢や経験年数に差があっても、お互いにそれを指摘できる職員間の信頼関係とシステム作りが重要だと考える。

#### (3) ハラスメントのない職場環境

今年度入職したCWより、1ヶ月後には先輩職員が、「私には、厳しい」との訴えがあった。両主任より数回の聴き取りを行い、調整を図った。しかし、最終的に施設長面談において退職の意思を示された。後輩職員育成の思いからの指導であっても、相手が辛く感じては、無意味である。「言った者勝ち」の風潮も良くないが、職員各々が「明日は我が身」であり他人事では無いことを常に意識した言動を行い、ハラスメントのない職場環境を整えるよう職員会議等で確認をした。これは職員が永く努めることのできる職場としての環境整備にも繋がるものと考えている。

#### (4) 施設整備

広安愛児園は、広大な敷地の中多くの樹木と自然によって、精神的安定(安らぎ)が保たれている。しかし、周辺には、新しい住宅が増えており、そこで生活する方々より、多量の落ち葉に対しての苦情が頻繁にあがってきた。その為、昨年度より造園業者に依頼して、徐々に枝や大木の伐採を行った。今年度は、主にグラウンド東側の大木の伐採を実施した。尚、伐採した樹木は、処分料金が高額な為、無料提供で「就労支援事業所・アウトリーチ」が、障害者就労の一貫としてキャンプ用薪材を加工作成し販売する目的で活用されている。

また、プールに関しては、8年前の熊本地震の影響で水漏があり、使用不可能の状態である。児童からの修理要望があるものの、高額な修理代が必要な為、手付かずのままであり今後の課題である。

4 児童動静

(1) 入所児童 (本園)

令和6年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均充足率
月初現員	27 (0)	27 (0)	26 (1)	27 (1)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	315 (2)	87%
入 所	0 (0)	0 (1)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	2 (4)	
退 所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	4 (4)	
月末現員	27 (0)	27 (1)	26 (1)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	25 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	26 (0)	25 (0)	312 (2)	86%

(2) 榎ホーム

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均充足率
月初現員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60	83%
入 所	0	0	0	0	0	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0 (1)	
退 所	0	0	0	0	0	0 (1)	0	0	0	0	0	2	2 (1)	
月末現員	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3	58	80%

(3) 福富ホーム

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均充足率
月初現員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	100%
入 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (1)	0 (1)	
退 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1)	0 (1)	
月末現員	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	71	98%

(4) 広崎ホーム

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均充足率
月初現員	5 (1)	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	64 (1)	88%
入 所	0 (1)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0 (1)	
退 所	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (1)	
月末現員	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	65	90%

①入 所 3名

②退 所 7名

③児童内訳 幼児 9名 高校生 7名  
小学生 16名 専門学生 1名(措置延長)  
中学生 6名

(4) 卒業生就職・進学状況

①高校卒業生 UM 専門学校 ESP エンタテインメント福岡 進学(措置延長)  
FH (福)敬愛会 特別養護老人ホーム みなみ園 就職  
MS 熊本保健科学大学 進学  
②中学卒業生 EY 城北高等学校 進学

令和5年度 事業報告（行事・会食等）

令和6年3月31日

	行事名	参加者	活動内容
4 月	進級入学祝い	全児童 全職員	子ども達の進級・入学を祝う会で、学年ごとに祝品（運動靴）の贈呈を行い、高校3年生の児童代表による誓いの言葉で決意を新たに新年度のスタートを切ることができた。式終了後には児童・職員集合写真や学年単位で写真撮影を行った。
	広安西小学校 家庭訪問	愛児園：担当職員 小学校：担任教師	年度初めの家庭訪問。全体会議の場で園の概要や現状を説明し相互理解を図った。全体会議後は、学校担任とホーム担当職員で個別ケースについて協議を行い対応上の留意点などを確認した。
	益城中家庭訪問	—	新型コロナウイルス感染防止対策のため未実施。
	創立記念礼拝	来賓 卒園生 全児童 全職員	創立時を覚え、楽しい礼拝となるよう、今年度も礼拝終了後に会食の機会を設けた。弁当店より鉢盛をとり、お客様にも同席いただき、立食形式で会食を行うことができた。また今年度は野口光太郎先生にご講話をいただいた。
	卒園生の会	卒園生 勤務職員	創立記念式典と同日の夕方18時頃から、園内のコイノニアで食事をしながら卒園生と職員の交流を図った。
5 月	野球観戦招待	希望者 引率職員2名	九州労働金庫様より福岡ペイペイドームでのソフトバンク観戦の招待をいただいた。ビュッフェ付きの観戦席で野球を見ながら食事を楽しんだ。
	こどもの日会食	全児童 勤務職員	こどもの日を祝して園庭でバーベキューを楽しんだ。
6 月	花の日合同礼拝	全児童 勤務職員	健軍教会において、教会に捧げる花を各ホームごとに準備し礼拝に参加し子どもたちそれぞれが献金を行った。
	ボランティア米田植え	希望児童 引率職員	井関農機労働組合熊本支部様の招待で、田植えの体験を行った。実際に水田に入り、苗を手植えする作業や、田植え機に乗車して機械植えする工程を体験した。
7 月	JCHIP インターソップ		新型コロナウイルス感染防止対策に伴い実施無し。
8 月	小峯地区夏祭り	小学生 勤務職員	夏祭りへの参加を通して地域との交流を深める機会となった。小学生は小峯子ども会の一員として、神輿作りから参加し、当日は完成した神輿を担ぎ、法被を着て愛児園内を含む町内を練り歩いた。夜は夜店などを見てまわった。例年行われている準

			備や撤収は必要なくなっていた。
	夏休みさよならパーティー	全児童 全職員	外部を招待せず、職員の家族のみは参加可として実施。子どもたちの出し物やラムネの早飲みを披露。会場内には食べ物コーナーを設置し、セルフサービスでの提供を行った。会の終わりには、花火をして盛り上がった。
10月	熊本平成マナークラブ交流会	全児童 勤務職員	クラブ会員と一緒に園内の作業を行った後、昼食に全員でバーベキューを行い、交流を深めた。
11月	熊本県養護施設秋季スポーツ大会	全児童 全職員	施設児童間の親睦を図ることを目的として、施設対抗の親善スポーツ大会に参加。男子はフットサル、女子はバドミントン。
	健軍うるてるフェスティバル	全児童 全職員	バザーの品物が集まらないため、フェスティバルと変更され実施。午前中の礼拝に出席し、礼拝終了後にキッチンカーや子どもブースを設け、お祭りの様な形態で実施。子どもコーナーは玩具クジを担当し子どもが接客も手伝った。
	小児祝福式	該当児童	健軍教会にて小学生以下までの児童の祝福を行ってもらった。中学生以下の児童には教会の方より手作りのお菓子をもらった。
12月	餅つき	全児童 全職員	竈の火力不足を補うために調理室でもち米を蒸した。またホーム毎に1回餅をつくように計画し、全員もちつきの体験ができた。昼食はおこわと豚汁。
	大掃除	全児童 全職員	園内の食堂、体育館など子どもと職員と一緒に清掃している。
	教会学校合同クリスマス礼拝	全児童 全職員	健軍教会に健軍教会本校、熊本ライトハウス、のぞみホーム、こどもL.E.C.センター、愛児園が集まり、礼拝と祝会を行った。愛児園は聖劇を披露し、その他の施設も出し物を披露した。
	クリスマス祝会	全児童 全職員	今年度もホームクリスマスを実施。第1部は体育館を会場に牧師による礼拝を行った。第2部は各ホームに分かれてホームパーティーを実施。ホームの特色を生かした飾りつけや料理で、日頃からお世話になっているお客様をもてなした。
	ラーメンの振る舞い	全児童 全職員	九州ラーメン党より例年行っているこども達へのラーメンの振る舞いを行ってもらった。こども達も喜んでラーメンを食べている。

1 月	祝膳・初詣	未帰省児童 勤務職員	正月帰省期間に帰省が困難な子ども達とコイノニアで祝膳。栄養士の手作り雑煮、ホテルキャッスル等から寄贈のおせち料理をいただいた。祝膳後は職員が引率し、近隣の神社へ初詣し、一年の無病息災を祈願した。
	児童外出行事	未帰省児童 勤務職員	グループに分かれ、アミューズメント施設や商業施設等に出かけ買い物や外食を楽しんだ。
3 月	卒業（就職・進学） 壮行式及び昼食会	全児童 全職員	卒業生を励まし送り出す会で、今年度は3名の児童が卒園を迎えた。記念品に印鑑の贈呈を行った。式終了後はホーム単位で記念撮影を行い、卒園生を囲んで食事会を開催し、職員より励ましの言葉を送った。
	ホーム外出	全児童・担当職員 (ホーム単位)	年間を通して月1,000円×1人=12,000円の予算で年間を通してホーム単位で外出(日帰り)を計画する予定で実施。
	園内保育所 卒園式	幼児 担当職員	式典を行い、当該児童の担当職員を招き卒園の記念品と卒園証書を手渡した。
	ホーム活動 (旅行)	全児童・担当職員 (ホーム単位)	各ホーム単位で1人2万円の予算で実施した。思い出作りを最優先に計画を立て、1泊の旅行を実施した。